

国立病院機構本部主催の看護師特定行為指導者講習会

鳥居 剛†

第75回国立病院総合医学会
(2021年10月23日～11月20日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 6 (428-432) 2022

要旨

看護師特定行為研修の指定研修期間、協力機関数は飛躍的に増加しており、指導者に対する指導者講習会の需要も増している。国立病院機構では本部主催の指導者講習会を2020年度より開始した。新型コロナウイルス感染症流行下にあつて、web形式での開催を企画し運営した。従来の集合形式と比較して研修参加しやすい利点はあるが、PC操作や通信の問題もあり、参加者同士の情報交換がしづらい欠点もある。研修を企画・実施していく上での考え方としてインストラクショナル・デザインに関する講義を入れたのが特徴である。指導者は教育者のみならず特定行為研修修了者のよきロールモデルでもあり、また施設に対して特定行為研修をアピールする役割ももつ。指導者自身も継続して学ぶことで、今後の特定行為研修の質、看護の質の向上、そして患者安全や満足度上昇につながることを期待したい。

キーワード 看護師特定行為研修, 指導者講習会, Web形式

緒言

国立病院機構（NHO）は、看護師特定行為研修修了者を増やすために、看護師特定行為指定研修機関（以下、指定研修機関）を50施設置くことを目標としている。各研修機関での指導者の育成も急務であり、看護師特定行為研修指導者講習会（以下、指導者講習会）を2020年度より開催している。本稿では、NHO本部として取り組んできた指導者講習会開催に関することと、開催してみえてきた指導者支援の方向性について概説する。

はじめに

看護師特定行為研修の指定研修機関には、適切な

指導体制を確保していることが求められる。その指導者は、指導を行うために必要な経験および能力を有している者で、特定行為研修に必要な指導方法等に関する講習会を受講していることが望ましいとされている。特定行為研修に必要な指導方法に関する講習会とは、すなわち指導者講習会のことを指している。

指導者講習会は指定研修期間や指定研修期間と連携して実習など行う協力施設における指導者の理解を促進すること、効果的に指導を行うことができる指導者を養成することにより特定行為研修の質の担保を図ることを目的としている。対象は医師、看護師、薬剤師である。

全国の指定研修機関は急増しており、2021年度はじめには270施設にのぼっている（図1）。指定研修

国立病院機構本部 医療部（現所属：国立病院機構 広島西医療センター） †医師
著者連絡先：鳥居 剛 国立病院機構 広島西医療センター
〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号

e-mail : torii.tsuyoshi.ae@mail.hosp.go.jp

(2022年3月22日受付, 2022年8月5日受理)

Faculty Development for Certified Nurse Specialist Training Course

Tsuyoshi Torii, Medical Department of Headquarter, National Hospital Organization

(Received Mar. 22, 2022, Accepted Aug. 5, 2022)

Key Words : certified nurse specialist, faculty development, on-line seminar

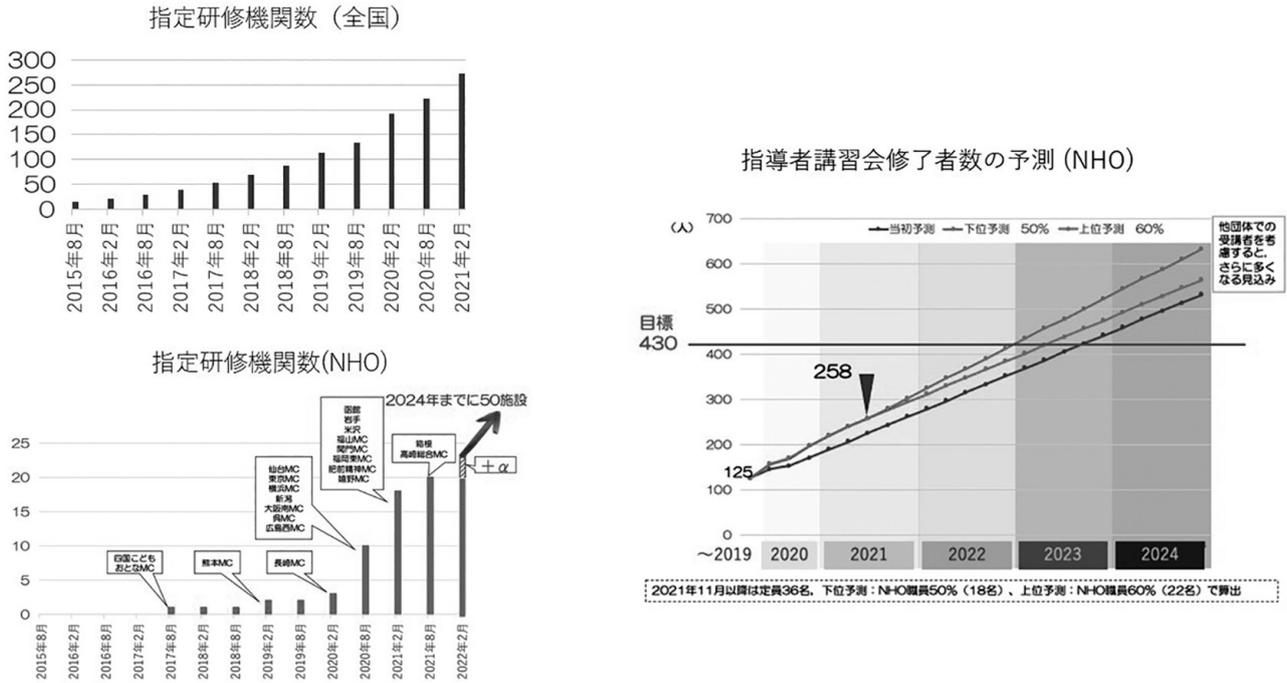


図1 指定研修機関数と修了者数予測

表1 R3年度看護師の特定行為に係る指導者育成事業実施団体

一般社団法人日本慢性期医療協会
公益社団法人全日本病院協会
公益社団法人日本看護協会
セコム医療システム株式会社
独立行政法人地域医療機能推進機構
独立行政法人国立病院機構
国立大学法人滋賀医科大学
公立大学法人和歌山県立医科大学
学校法人国際医療福祉大学
学校法人自治医科大学
国立大学法人琉球大学

厚生労働省HP 2021.7

機関は上述のように指導者講習会を受講した指導者が必要であるため、指導者講習会の需要が増している。しかし2020年度に開催された指導者講習会は、他の団体を含め全国で20回にとどまっている。

厚生労働省より指導者育成事業実施団体すなわち指導医講習会を開催できる11団体を表1に示す。国立病院機構では指導者講習会の需要増を受け、本部サービス・安全課を中心に令和2年度より厚生労働省の看護師の特定行為に係る指導者育成事業の実施団体への応募を行い、指定を受けた。

NHOの指定研修機関は、2017年8月に熊本医療センター、2019年2月に長崎医療センターが指定さ

れたのを皮切りに急増し、2021年8月現在、20施設が指定されている(図1)。指定研修機関1施設当たり5名(責任者1名、医師1名、看護師2名、薬剤師1名)、特定行為研修修了者を配置している施設1施設あたり2名(医師1名、看護師1名)と想定した。2024年度末までに50施設を指定研修機関とすることを目標としており、特定行為研修修了者を配置している施設は90施設あることから合計430名(250名+180名)の指導者講習会修了者を育成することを目標に掲げた。

指導者講習会の開催数については、1回あたりの受講者36名の50%をNHO職員が占めると想定する

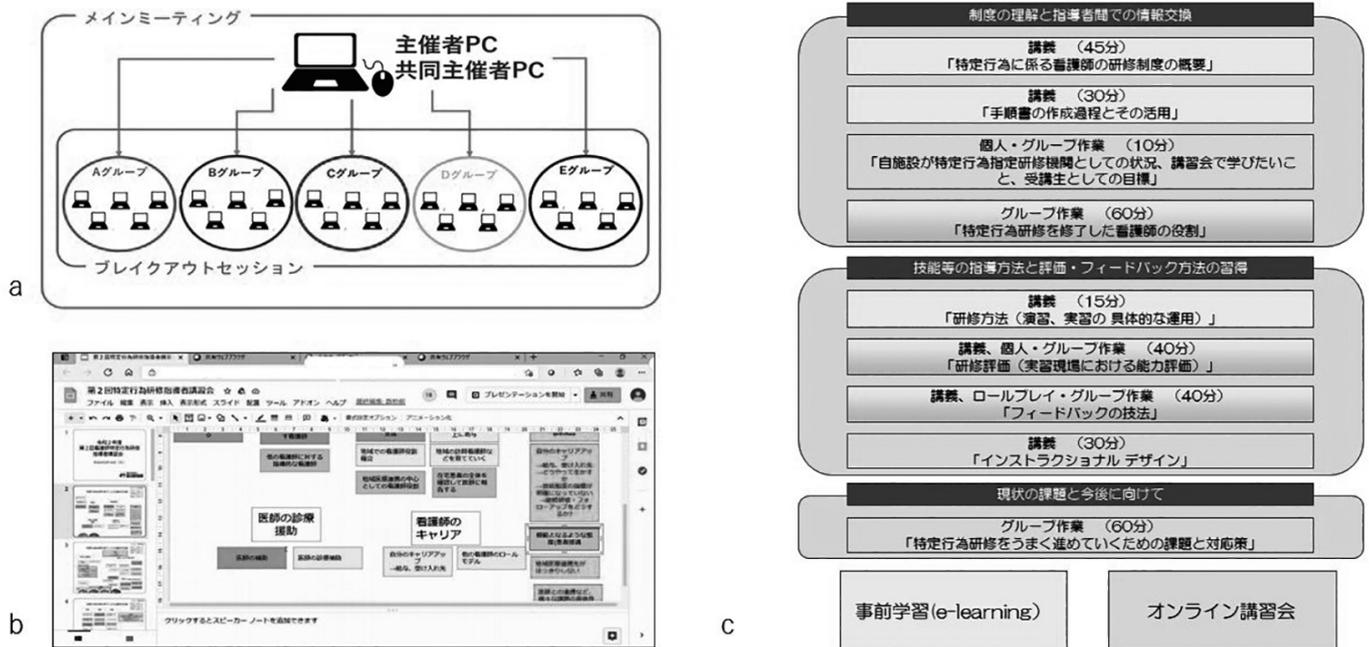


図2 オンライン講習会とプログラム

と、年間90名、2021-2024年の4年間で360名の修了者を輩出できると仮定した。2021年8月現在終了者は238名であり、またNHO職員の参加割合は60%程度であるため、今後もこのペースで修了者が増えるとするれば、他団体での受講生もあることから、予想より多数の修了者が見込まれる(図2)。指導者講習会の指導者、タスクフォースにはNHOの各グループで臨床研修指導医講習会の指導歴、特定行為研修を修了し指導者として活躍している診療看護師などから選定した。

指導者講習会の内容は、制度の理解と指導者間での情報交換、技能などの指導方法と評価・フィードバック方法の習得、現状の課題と今後に向けて、の大きく3つに分けられる。NHOの指導者講習会の特徴として、インストラクショナル・デザインの基礎に関する講義を盛り込んだ(図2)。

2020年度、第1回は、呉医療センターにおいて集合形式で開催した。事前学習はオンラインで済ませ、グループワークは午後集合形式で行った。すでにコロナ感染が広がっている状況であったが、マスク、フェイスシールド着用、こまめな手指消毒など感染対策に万全を期した。密を避けるため1グループ5人とし、間隔をあけた座席配置とした。10月下旬で窓を開けての換気は寒く、マスク、フェイスシールドを着用したままでは息苦しい、声が聞こえにくい

等の意見があった。また、コロナ前の研修と比べて感染対策物品が多く、ロジ面での負荷も大きかった。第2回以降は集合とwebのハイブリッド構成で準備した。1グループ4人で同一施設からの参加とし、4施設4グループで行った。1グループでインターネット2回線を用意する必要で、さらにWebex®専用端末も必須としたため、NHO外施設はほぼ参加不能であった。第3回はブレイクアウトセッションを利用することで、各グループ(施設)1台のPCで参加が可能となり、NHO外から1施設参加した。しかしグループ討議を同一施設内、少人数で行ったため、議論が深まらず、他施設との情報共有もできないのが欠点であった。令和3年度からは参加者が自分のPC端末から参加する形式とした。事前の接続テストの手間は多少かかるものの、全国どこからでも参加でき、NHO外からの参加も増えた。グループワークはGoogle®スライドでプロダクトを作成しつつ議論を深める構成としている(図3)。

指導者講習会は毎回70-80人程度の応募があり、2020年度第2回は定員の5倍、2021年度も定員の2倍以上の応募があった。応募者の所属施設は指定研修機関、また指定研修機関として申請予定のところが多く経験年数は10年以上の者が多かった。

参加者の所属は、令和2年度はシステム要件の縛りから、^{しば}ほぼNHO職員で占められていたが、2021

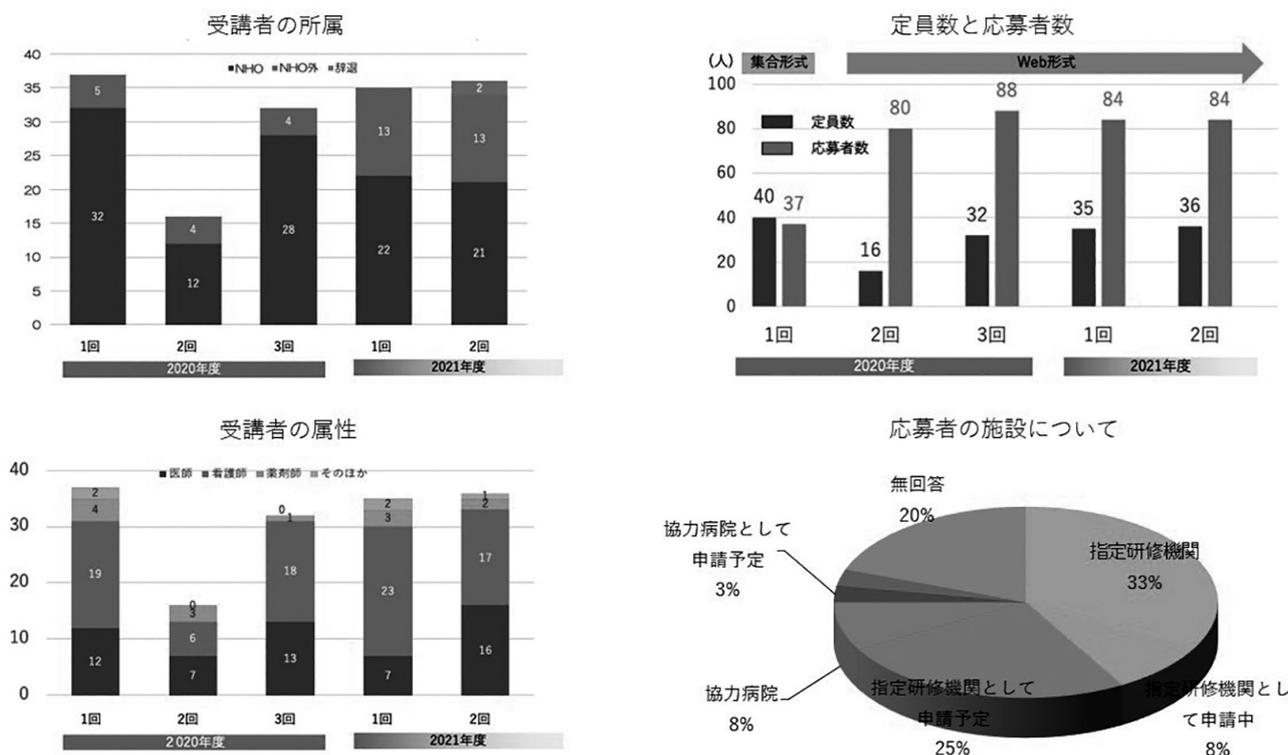


図3 応募者・受講者の所属、属性

年度はNHO以外の参加者比率が37%になっている。参加者の職種は看護師のみならず、医師、薬剤師などの参加が増加している（図3）。

講習会後に講習会全般、講習後の目標達成状況、各講師の評価、web開催についてアンケートを行った。教育の方針を学ぶことができた、現在の課題を把握できた、という声がある一方で、時間が長いという声もあった。期待どおりかどうかについては、理解につながったなどの意見と、モヤモヤが残ったという意見があった。このモヤモヤを、先行する施設とこれからの施設との参加者で共有し、どうすべきか考えていくことが重要である。

講習内容については高評価を得た。悪い評価としては、より具体的なところを盛り込んでほしい、時間設定が長いというものであった。他施設の指導者とネットワークが深まったかどうかという問いに対しては、満足という回答は50-60%程度と低かった。参加者の所属施設が、すでに指定機関として活動しているところと、これから申請するところ、あるいは協力施設であるところなど特定講師研修に対する取り組み段階に差があるため、意見が出しにくい参加者もあった。可能な限り他施設との情報交換を行うため、閉会式終了後に参加者をグループに再度分

けて、制限時間まで自由に意見交換できるような工夫を加えた。NHO講習会の特徴ともいえるインストラクショナル・デザイン（ID）の講義については、適切、むしろ時間が短い、という意見が多かった。

また、web開催が適切かどうかについては適切という意見が85%であった。一方で今後の講習会をどうするかについては、web開催42%、集合形式17%、両形態を合わせた形式が41%であり、集合研修も合わせた形式を望む意見が多かった。もともと指導者講習会は集合形式であるが新型コロナウイルス感染症のまん延により、当初からweb開催を想定して準備を進めた。講義など知識部分はe-learningシステムを用いてオンデマンドの講義を視聴し、小テストを受けるといった事前学習を取り入れた。オンライン講習会では事前学習をふまえ、グループワークを中心に行っている。集合形式は丸一日かかるが、web形式では事前学習と組み合わせることにより、オンライン講習会を午後の4時間程度に抑えることができた。

集合形式とweb形式の利点と欠点をまとめると、集合形式はコロナ禍にあっては感染対策を完全にすることは困難であり、また出張費用や日程調整など参加のハードルを上げる要因がある。一方、web形

式は、参加のハードルは低くなり、感染リスクがない、事前学習で参加者の知識をそろえたうえで、グループワークができる利点がある。一方、通信の問題や参加者にある程度のITリテラシーが求められる、他者とのコミュニケーションが取りづらいといった欠点がある。それぞれの形式の利点と欠点を比較し、また新型コロナウイルス感染症の拡大状況を加味して今後の開催方式を検討していく。

最後に指導者の役割について、指定研修機関の指導者から現場の意見を募った。指導者のあり方を考え、指導計画を作成し、研修をサポートすること、適切に研修生や研修内容そのものを評価し次に活かすことといった本来の役目に加え、教育者、また修了者のよき理解者であり、メンター的な役割も考えられる。またせっかく育てた特定行為研修修了者が退職や異動するために指導のモチベーションが上がらない、という切実な声があることから、特定行為研修を自院で如何にアピールするか、診療看護師や認定看護師との違いをどう伝えるか、さらに、なぜ知ってもらう必要があるのか、を考えて施設管理者以下、施設職員が特定行為を正しく理解できるよう働きかける役割が強調されている。指導者講習会を修了すれば熟練した指導者になることができるわけではなく、指導者自身の継続した学びも必要である。

おわりに

NHO主催の看護師特定行為指導者講習会について概説した。集合形式、web形式それぞれの利点、欠点がある。施設が特定行為を理解することが最も重要である。

また、NHOは指導者講習会開催数や修了者数を増やすことが目的ではない。参加者の意見をふまえ、指導者の悩みを共有できるよう指導者講習会の改善を続けるとともに、指導者のサポートも行っていきたい。そして特定行為研修の質、看護の質の向上から患者安全や満足度上昇につながることを願っている。

〈本論文は第75回国立病院総合医学会シンポジウム「特定行為修了者の看護師としての役割と活動の支援について」において、「国立病院機構本部主催の特定行為指導者講習会」として発表した内容に加筆したものである。〉

謝辞 最後に、指導者講習会開催に資料提供はじめ多大なご支援をいただいた全日本病院協会様、お忙しい中時間を割いてタスクとして参加いただいた皆様に感謝の意を表します。

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし。